

令和5年度事業計画書

公益社団法人 劇場演出空間技術協会

令和5年度の事業活動は、令和4年6月1日に改正した定款に基づき、令和4年度に新たに選任した役員による組織体制にて、事業活動を定着させ推進する年度となる。

令和5年度は、新型コロナウイルスにより大きな影響を受けた本会の運営を立て直すとともに、急激な国際社会の変動を確実に捉え、新しい潮流を敏速に取得し本会の公益事業に反映する。併せて、不特定多数の国民のために、定款第4条に掲げる公益社団法人としての事業活動を余すところなく実行する。

本会の会員が、JATETの存在意義と会員である事を実感し、誇負できる公益活動を活発に行うとともに、本会の活動を積極的に全国に向けて訴求する体制を強化する。

令和5年度に実施する具体的な事業計画は次の通りとする。

1. 会議

1) 総会

令和5年5月25日（木）エッサム神田会議室に於いて開催予定。

協会の最高機関として、定款第52条(事業報告及び収支決算)に則り令和4年度事業報告、収支決算報告に関する承認決議を行う。また、第51条(事業計画及び収支予算)に則り令和5年度事業計画、収支予算書の報告を行う。

2) 理事会

定例理事会を年4回開催し、協会運営に関する重要事項を審議し、業務の執行を決議する。

2. 委員会

1) 事業執行連絡委員会

定款第58条（委員会）に則り、理事会の諮問機関として、執行理事及び部会長で構成される事業執行連絡委員会を毎月1回、年12回開催する。年間事業計画に基づき理事会で承認した事業を執行し、理事会と部会の緊密な連絡を諮る。

3. 各部会事業計画

令和5年度における所属各部会の主たる事業計画は次の通りである。

1) 教育研修部会

劇場、文化施設の繁栄に努め、公益社団法人として社会貢献できるように取り組む。

[事業計画]

(1) 部会を原則月1回開催し、新設、改修された劇場、施設の情報収集する。

(2) 新設、改修された劇場、施設に対し、施設見学会を年3回を目標に開催する。

見学会を開催することで、施設建設の工夫などみどころを建設に関わった方たちから聞き、施設の関心を高めるとともに、これからの文化施設建設や設備技術の向上に貢献する。

〈予定施設〉

◎やまぎん県民ホール（山形県総合文化芸術館）※見学会打合中

（検討施設）

- ・岡山芸術創造劇場 ハレノワ（2023年9月OPEN）
- ・水戸新市民会館（2023年7月OPEN）※関係スタッフもJATET見学会に前向きとの情報あり
- ・有明ガーデンシアター（2020年6月OPEN民間ホール）
- ・枚方市総合文化芸術センター（2021年8月OPEN）
- ・NHKホール（2022年改修）
- ・佐賀県鹿島新市民会館（2023年夏引渡）
- ・四万十市文化複合施設（2024年4月OPEN）

- (3) コロナ禍以来3年間見学会を実施できなかったため、23年度は過去3年間に完成した施設を含め、新築・改修施設の見学会を計画し、設計事務所やゼネコンの方たちの新たな設計・施工への発想を促し、新しい劇場や演出空間の建設に役立つ情報を発信する。
見学先の選定については、引き続き感染拡大防止に配慮しながら慎重に行う。
- (4) 見学会が開催された劇場をはじめ、過去3年間コロナ禍で見学できなかった施設も含め、JATETジャーナルで紹介し、最新の劇場技術リニューアルの実例等を全国に無料で発信する。

2) 建築部会

部会を原則月1回開催し、次に掲げる調査研究を実施する。

調査研究

劇場・ホールにおける各部計画のガイドライン作成(令和4年度からの継続)

- ・劇場・ホールの設計・建設時において、ガイドライン(指針)が曖昧な箇所は少なくない。
- ・特に、近年の安全面に関する規定が厳格化される一方、それに対応したガイドラインが明確になっていないなど、時代の変化の状況に追いつけていないという面も否定できない。そこで、劇場・ホールの各部の内、特に重要と思われる箇所等をピックアップし、JATETとしてのガイドラインを策定することを目的とする。
- ・項目を洗い出すにあたっての基本的な考え方は以下のとおり。
 - 1) 建築部会の部会員の構成から建築計画に関わる点を対象とする。
 - 2) 建築・消防他、既に法規で規定されている項目以外の規定されていない箇所、項目を対象とする。
 - 3) 消防法の改正が実施されるにあたり、JATETとしての対応を建築部会がサポートする。

3) 機構部会

部会を月1回開催し、以下の活動を行う(3月、8月を除く)。必要により研究会を行う。

- (1) 機構部会指針見直し
JATET-M-4010-2 舞台機構操作で使用される用語と操作釦等の配置
- (2) バトン形状の調査・研究
バトン形状の種類・用途について調査・研究を行う。
- (3) 点吊装置型劇場についての調査・研究
吊物装置において従来の配列固定式と点吊装置による任意設置式について調査・比較・研究を行う。
- (4) その他の事業において機構分野の分担・協力をする。

4) 照明部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

- (1) 【継続：ホール運用聞き取り調査とまとめ】
昨年度8件の聞き取り調査を実施した。そのうち5件はJATET誌91号にて報告したが、発刊時期の関係から3件が未報告になっている。よって、残りの3件をJATET誌にて追加報告しこの報告をもって、本テーマを終了とする。
- (2) 【継続：JATET-L-7190 の改正作業】
JATET-L-7190 の改正作業を行う。複数年度になる可能性があるが、規格の内容が現状に合わなくなっている部分も有るので見直しが必要である。具体的な進め方は部会で相談をして決定していく。進捗状況にもよるが、今年度の規格発刊を目標として進めていく。
- (3) 【継続：表示内容の定義と統一】
昨年度は、JATET-L-5080のLED版として、「JATET-L-22010」を制定した。内容については、JATET誌91号で紹介している。引き続き、ユーザーが照明器具を選択するときの情報をわかりやすく統一できるように検討を進めていく。今年度は、特に、カラー機器の記載統一の必要可否について、検討をしていく。
- (4) 【継続：照明設備に関するEMCの調査研究】
昨年度は、『演出空間用照明機器におけるEMC(電磁干渉等)研究調査会』を立ち上げ、法令関係についてまとめた。今年度は、実際にどの程度の影響があるかを確認するために実験を進めていく。実際には、「配線はまとめて束ねても大丈夫か？」などの現場環境で想定される内容について意見を出し合い、その中から選択して実験をしていく。結果として、不具合は起こらないかもしれないが、不具合が起こらないということも結果として受け入れ、まとめていく。

5) 音響部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

音響設備に関する最新かつ有用な情報を幅広く収集し、JATET規格として取り纏める。また、その内容をJATET誌、JATETフォーラム・技術展において発表する。

- (1) 電源電圧の違いによるパワーアンプ出力信号への影響と漏れ電流についての調査研究
配電方式が単相3線式100V/200Vのとき、パワーアンプを100V、200V駆動した時の出力信号を計測しその特性を評価する。
また、上記に加え音響機器の漏れ電流を観測し、信号への影響を評価する。
- (2) 音響電源200V使用時に安全に運用できるコネクタについての調査研究
安全性、汎用性の高い電源コネクタを調査・選定し、劇場等演出空間用標準コネクタとして推奨していく。
- (3) 劇場等演出空間用音響設備の劣化診断・適正更新時期判定に関する調査研究
音響設備の劣化診断を実施するためのチェックリストを作成し、その結果をもとに適正な更新時期が判定できる基準を策定する。
- (4) 舞台連絡設備指針改定に向けた調査研究
過去のアンケート調査結果及びJATETフォーラム2020/21セミナー・インタビュー等を踏まえ舞台連絡設備指針の改定作業を実施する。
- (5) ネットワークオーディオの伝送規格に関する調査研究
SMPTE ST2110伝送規格の調査と疎通試験を通じて、劇場・ホールにおける運用の可能性を探る。(映像部会との共同研究)

6) 映像部会

部会及び研究会は、リアル参加を復活させて情報共有を深め、WEB併用で出来るだけ多く参加していただけるよう、月1回程度を目標に開催し、関連情報の収集および会員への情報発信、他部門との相互連携を目標として活動する。

<技術状況>

2020東京オリンピックもコロナ禍の影響で2021年7月に延期を余儀なくされたが、オリンピック開催を目標とした技術開発のお陰で、世界中であらたなハードウェアや世界標準規格が生まれている。

コロナ禍の状況下でも、それらを用いた新たなソフトも生まれている。人々の活動も留まることなく、劇場に於いてもVR/ARなど新たな演出も取り入れられ、映像制作技術と劇場映像演出の融合や、劇場に来られない人々に対しIPネットワークを利用した配信など、新しいセンスでハードウェアを使いこなす事により、新たな世界が広がりつつある。既存メディアが拡張し、他のメディアどうしが融合し、新しい価値観が生まれる時代だと感ずる。

以下の研究テーマを中心に、最新動向の調査および研究会を実施する。

「研究会テーマ」

- ①劇場メディアの拡張性について (部会を超えたテーマで調査し、他部会と共同研究を行う)
- ②劇場映像装置について (その役割、機能、効果等、調査研究を行う)
- ③映像演出機器について (劇場に持ち込まれる機器等、調査研究を行う)

- ・それぞれのテーマに沿って、研究員を募り研究会を発足する。
- ・それぞれのテーマに沿って、専門分野の講師を招いて研究会を開催する。
- ・それぞれのテーマに沿って、該当する施設や企業、展示会等を見学し知見を深める。

- ・JATETフォーラム/技術展で、それぞれの研究成果を発表する。

7) 広報部会

部会を隔月1回開催し、以下の活動を行う。

- (1) JATETとその活動についての情報発信を図る。

JATETの持つ多くの劇場演出空間についての情報や人的資源を、広く社会のために資するための広報活動を展開し、社会のニーズを調査し、JATETとその活動範囲の拡大と活性化を図る。

JATETリーフレット（WEB版）の改訂を行う。またWEB上において英語版のJATET紹介を作成する。

(2) JATET全体での事業について、広報分野を担当し協力する。

JATETの重要な広報媒体であるJATET誌の編集に際して、その内容がより読みやすかつ魅力的なものであるよう、基本方針を検討作成し、編集担当部会と協力を行う。また、JATET主催行事の運営に協力する。

(3) 具体的な活動としては、

・ JATETの英文紹介ページの作成

前期に作成したJATETの英文紹介ページの案をさらに進めWEB掲載を行う。

(4) JATET誌

・ 編集方針、内容、誌面構成等について検討し、方向性を探る。

・ 一部の記事については当部会で記事を作成する。

(5) Webサイトの検討

Webサイトの更新について協力し構成を検討する。

(6) 新会員の勧誘

減少傾向にある会員数を鑑み、対外アピールをしていく中で、組織、活動、特典を魅力的に見せる検討を行う。たとえば会員勧誘のための方策として、以前はプロに限定していた会員枠を専門学校生、大学の学生などが早い段階から興味を持ってもらい、安い値段で参加出来るような会員制度等を検討する。魅力的な劇場に関する講座を開催する。等を検討する。

4. JATET フォーラム・技術展

令和4年度は、ほぼ3年ぶりとなるJATETフォーラム2022/23を、千代田区内幸町ホールにてリアル開催した。一方JATET技術展は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、従来2年に1度の開催を延期中であり、令和5年度は前回の開催から4年目となる。令和5年度は、延期しているJATET技術展またはJATETフォーラムのいずれかを開催したいが、新型コロナウイルス感染状況を見極めながら、柔軟に検討を進めていくこととする。

5. 国際交流

定款第4条（事業）第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、OISTAT（劇場芸術国際組織）日本センター及び韓国産業技術試験院（KTL）との交流、連携をより一層強化する。世界的なコロナ禍の影響を受けている中ではあるが、各国の状況を注視しながら、アジア5機関（韓国・中国・台湾・シンガポール・日本）による“Asia Entertainment Safety Alliance, AESA”「アジア・エンターテインメント・安全協議会」への参画を通じて、アジア諸国との交流を推進していく。

6. 国内交流

定款第4条（事業）第6項「内外関連機関・団体等との交流」に基づき、劇場演出空間施設とこれに関連する設備・機器の安全確保と技術の向上に関する関連機関・団体等との交流を促進する。

7. 発刊物

1) 機関誌JATET

機関誌JATETを年2回程度発行し、JATETが創立以来行ってきた事業や研究成果を広く社会に訴求する。

また、各部会で研究、調査している最新技術や最新情報を広く社会に紹介する。

2) JATETジャーナル

JATETジャーナルは教育研修部会が実施する劇場施設見学会と連動し、ホームページ上で公開している。

最新の劇場演出空間及びリニューアルされた劇場演出空間を広く全国に紹介する。

3) JATETニュース

JATETニュースは、最新のJATET情報や関連団体の活動を速報として、毎月1回を基本にメールマガジンとして発行する。

4) JATETリーフレット

公益法人としてのJATETの設立意義とその活動について広く社会に周知し、より多くの会員を獲得するため広報部会が作成し協会のホームページ上で公開したJATETリーフレット（WEB版）の改訂を行う。

以上